

### 交通事故防止へ 地域一丸の活動実る

交通事故死亡事故抑止賞賛状伝達式は3月6日、市役所で行われ、1年間の交通死亡事故ゼロ(※)を達成した本市に、三枝守県警本部長から賞賛状が贈られました。

式には、遠野警察署の豊岡茂署長と高橋祥夫交通課長らが訪れ、本田市市長に賞賛状を手渡しました。豊岡署長は「昨年3月に仙人峠道路が開通するなど市内の交通環境が変化する中、交通事故抑止へ市民一丸となった取り組みの成果」と功績をたたえました。

市交通安全対策協議会会長の本田市市長は「今後も市交通安全協会(菊池敏行会長)、地区交通安全母の会連合会(菊池芳子会長)、市交通指導隊(湊文忠隊長)、遠野警察署と連携して、地域や職場への交通安全意識の啓発活動をさらに充実させていきたい」と決意の言葉を述べました。

※交通事故件数は統計分類上、公道上で発生した事故のみカウントされています



三枝守・県警本部長から贈られた賞賛状

広報遠野3月号12ページのNews & Topixで紹介しました「工房木くぱり」は、「工房木ぱくり」の誤りでした。おわびして訂正します。



新しく配置された消防活動車両と小型動力ポンプ

### 災害に強いまちづくりのため 消防機械器具を配置

消防機械器具配置式は三月二十五日、市消防本部庁舎前で消防団員など五十人が参加して行われました。機械器具は、市総合計画に基づき災害に強いまちづくりを構築するため整備したもので、事業費総額はおよそ三千四百万円。

新しく整備した機械器具は、▽消防資材搬送車一台(遠野消防署へ配置)▽消防ポンプ自動車一台(宮守出張所へ配置)▽小型動力ポンプ積載車一台(第三分団第五部へ配置)▽小型動力ポンプ二台(第三分団第五部、第九分団第三部へ配置)です。



事業所に交付された表示証

市消防団協力事業所「表示証」交付式は三月十七日、市役所で行われ、市内八事業所の代表者に本田市市長から表示証が交付されました。

### 防災体制の充実・強化に 事業所の大きな支援

消防団協力事業所表示証は、事業所に勤務する従業員が、消防団として活動しやすい環境づくりや、事業所が持つ防災力を提供するなど、消防活動に協力する事業所に交付されるもの。市消防団(細川巖団長)の団員九百五十人のうち、約八割の七百十人が事業所に勤務しており、消防団と事業所との連携・協力が体制が築かれることで、地域の消防・防災体制の充実が期待されます。

- 今回、認定された事業所は次のとおりです。
- 1 ㈱ワイ・デー・ケー(渡邊和夫代表取締役)
  - 2 ㈱菊栄工務店(菊池栄喜代表取締役)
  - 3 遠野精器㈱(川村隆平代表取締役)
  - 4 遠野建設工業㈱(長洞由視代表取締役)
  - 5 佐藤建設㈱(佐藤光壽代表取締役)
  - 6 ㈱沼田製瓦工場(沼田功代表取締役)
  - 7 定信工業㈱(小原信喜代表取締役)
  - 8 遠野地方農業協同組合(菊池福松代表理事組合長)



本田市市長から表示証を交付される市内8事業所の代表者

### 世界規模の企業を目指し 三社ががっちりスクラム

㈱オサダ(本社東京都八王子市、長田豊社長)と㈱大村製作所(本社山梨県甲州市、大村利夫社長)、㈱成光工業(本社神奈川県川崎市、松尾教弘社長)の立地調印式は三月三日、あえりあ遠野で行われました。

㈱オサダは、一九八三年設立の端子台メーカーで、携帯電話やエアコンの家電製品や、自動車やエレベーターの制御装置などに使われる部品を生産しています。若手事業所は二〇〇五年二月に開設し、第一・第二工場で約四十人が勤務。第三工場は、延べ床面積約七三〇平方メートルで、新規雇用は四人を予定しています。若手事業所周辺約七九〇〇平方メートルの用地

を㈱オサダが購入・造成し、協力企業二社が工場を建設する予定です。㈱大村製作所は、十月をめどに操業を開始。新規雇用は当初三人、最終で十二人を予定しています。成光工業は、来年十月の操業開始に向け準備を進めています。操業時に五人、最終的に十人を新規雇用する予定です。長田社長は「この二社と協力して、二〇一二年までには国内シェア単独首位、海外でも三・四番手を目指していく。遠野が元気になるように、地域の人たちとも協力しながら、お互い高め合っていきたい」と力強く決意を述べました。

### 市長ひとこと わらすっこの成長

「少子化対策・子育て支援」という言葉が、新聞やテレビ、国や自治体の中で盛んに使われています。本格的な人口減少社会を迎えている今の日本には大きな課題であり、その解決に明確なシナリオを見いだせず、国も試行錯誤を続けています。

遠野市は、この課題に挑戦しようとして平成十八年から約二年間、市民の皆さまから意見や要望をいただきながら、検討してきました。その中から生まれた計画がこのほど公表した「遠野わらすっこのプラン」です。保育料の半額助成を含め、約三十三の事業を盛り込んでいます。きちんと実行するのは当たり前ですが、わたしはこの計画を市民の皆さまと一緒に育てていきたいと考えています。

生まれたばかりの計画。ハイハイからヨチヨチ、そして伝い歩き、最後は元気よく走り回る。そんな子どもの成長と同じように、ぜひ、皆さまの手でこの「わらすっこのプラン」をたくましく育てていただければと思います。(本田敏秋)